

第五号

2010年10月1日発行



JABLAS NEWS

目次

| | |
|--|----|
| ウェブサイト上に JABLAS 広場開設—双方向情報交換が可能に・・・ | 1 |
| 会員の声 「試験所認定のメリットと JABLAS への期待」 | 1 |
| 明治乳業株式会社 研究本部 技術開発研究所 品質・安全評価センター 試験分析 G 小嶋 禎 | |
| 「認定取得の目的とメリット」 | 4 |
| 財団法人 茨城県建設技術管理センター 技術部 石井 盛男 | |
| 活動報告 | 6 |
| アンケート結果のまとめ | 7 |
| 今後の予定 | 13 |
| 新刊紹介 | 14 |
| 会員状況 | 14 |

ウェブサイト上に JABLAS 広場開設—双方向情報交換が可能に

JABLAS 活動は、会員の皆様の声を反映し、会員自らが運営することが基本です。これまで会員同士あるいは事務局との情報交換が必ずしも十分でなかったことを踏まえて、この度ウェブサイト会員限定コーナーに、双方向情報交換を効果的に行える JABLAS 広場及び憩いの場を設置しました。遠方の会員様にも容易にご意見等をいただけるようになりましたので、是非ご活用ください。

利用方法は別途郵送させていただきましたが、ご不明の点はご遠慮なく事務局までお問い合わせ願います。

会員の声

前号で、株式会社 ハウス食品分析テクノサービス様より、「試験所認定のメリットと JABLAS への期待」と題する記事を会員の声として投稿していただきましたが、好評でしたので、今後シリーズものとして毎号1ないし2件を掲載することといたします。会員の皆様方の積極的な投稿をお待ちしております。内容は試験所認定制度の発展に寄与するものであれば自由です。

1. 試験所認定のメリットと JABLAS への期待



meiji

明治乳業株式会社研究本部
技術開発研究所
品質・安全評価センター 試験分析G
小嶋 禎

はじめに

明治乳業株式会社研究本部に所属する試験分析 G は 2009 年 11 月に JAB により試験所認定を受けました。他の多くの試験所様が ISO/IEC 17025 の要求事項をクリアされ、幾度も更新をされている中であって、当グループはこれから JAB による第 1 回のサーベイランスを迎える段階です。JABLAS の担当者から原稿執筆を依頼されたときは、当試験所は認定を受けたばかりであり、また紙面を汚すことになるのではないかと思います、何度となくお断りいたしました。それでも寄稿させていただくこととしたのは、認定制度を広く広めたいという JABLAS の方の説明と情熱に心打たれたからです。弊社のような事例が他の多くの試験所様にとって認定取得のきっかけとなれば幸いです。

JAB 認定取得の動機

明治乳業は、乳・乳製品を基盤とした商品やサービスの提供を通じて、お客様の「健康」に寄与することを目指しています。研究開発部門では、当社のコア技術である発酵技術、プロバイオティクス技術、栄養設計技術、乳化技術の更なる応用発展を図るとともに、お客様の健康で幸せな毎日に貢献できるような新商品を提供し続けるため、日々の研究活動を実施しています。

弊社では、牛乳・乳製品の他、お客様の栄養摂取を支援するため種々の栄養食品を開発し上市しています。これら栄養食品、とりわけ、赤ちゃんのための粉ミルクや、通常の食事から栄養を摂ることが困難な方に対して使用される液状の栄養食品、いわゆる流動食等は、多くの微量栄養成分を含んでいますが、その含量は栄養設計に基づいて厳密に定められた規格の範囲に入っている必要があります。

これら栄養食品を開発・育成していく為には、ビタミン・ミネラルを始めとした微量成分について正確な含量値を定量して評価し、またそれらの安定性についても徹底した検証を行うことが重要です。栄養表示項目の確認・検証のために当グループでは研究開発段階あるいは工場試製品について種々の分析業務を実施していますが、分析業務においては、試験成績値自体の信頼性の確保が社内外で一層重要視されています。

また、先天性代謝異常症の患者の治療のために使用される「特殊ミルク」という粉ミルクがあるのをご存じでしょうか。弊社小田原工場では、厚生労働省が参画する特殊ミルク共同安全開発委員会のご指導の元で、20 数品目を製造し出荷しています。特殊ミルクは多くの病態に応じて設計品質が異なり、品質・成分や、使用法等が定められています。当グループでは、特殊ミルクに関する品質管理を支援するため、微量成分等の分析を行っていますが、製品の品質上、厳密な品質管理が要求されています。

以上のような背景で、試験分析Gではビタミン等微量成分の分析に関して、より一層の信頼性向上を図る必要性があったことから、ISO/IEC 17025 に基づく試験所認定を申請し、取得いたしました。

試験所にとってのメリット

当グループでは試験の信頼性確保のため、試験手順の設定や正確に記録すること等の重要性については十分認識していたつもりでしたが、ISO/IEC 17025 の認定申請に際しては審査員の方から多くのご指摘や注記事項等を頂きました。それはそれまでの社内での業務運用上にはない視点での指摘であり、国際標準という考え方からすると当試験所はまだまだ至らぬ点が多いことを痛感しました。それら指摘事項に対して試験の運用、手順を改めて見直しを行い、また教育訓練等を通じて、試験所員一人ひとりの意識は変わり、結果的に当試験所自体のレベルアップが図れたものと考えます。

認定取得による社内での反響及び社外への影響

当グループでは、研究本部内において商品開発を実施している部署や弊社工場を内部顧客としています。試験業務については、依頼者に対し試験・分析の技術力が保証されている点を説明し、報告する試験成績値については内部精度管理等に基づいて十分説明

できる結果であることを理解していただいています。商品開発部署においては、当Gの認定を通じて試験・分析業務の信頼性向上のために日々努力と改善を続けていく事の重要性が認知されてきています。

弊社では商品開発から生産、販売、お客様とのコミュニケーションに至る全ての工程に於いて、どのような品質保証活動をするのかを明文化しており、この全社的な品質保証システムを「明治クオリアス」と称しています。研究本部におけるISO/IEC 17025の認定取得は、明治クオリアスにおける開発・設計工程の重要な活動成果の一つとして注目を受けております。今後、試験や検査を行う他部門に対してISO/IEC 17025の考え方の普及・展開をし、試験の信頼性の向上を図りたいと考えています。

今後の課題或いは重点的取り組み

ISO/IEC 17025 試験所認定では試験に関わるマネジメントシステムを運用し、改善することが求められます。すなわち、PDCA サイクルの実践が重要です。当グループでは認定取得後のはじめてのサーベイランスをこれから迎えますが、審査を前向きにとらえ取組みたいと考えています。

JAB 及び JABLAS への期待

ISO/IEC 17025 試験所認定を目指すラボ、研究機関にとって、最初のハードルは認定に係わる情報の少なさではないでしょうか？ISO/IEC 17025 では管理上の要求事項や、技術的要求事項等多くの要件があることは、おそらくすぐにわかります。しかし、JIS Q 17025 やその解説書等を読んでも、自身の研究機関の仕組みがそれを満たすものなのかどうか、理解することは容易ではありません。当グループでも、試験の妥当性確認や不確かさの検証をはじめとして、内部精度管理や外部精度管理の手法等は、当社ではこれまで専門的に取り組んでいなかった領域であり、具体的に何をどのようにして準備を進めていったら良いのかもわからない状態でした。

これから認定を取得することを考えている試験所にとって重要なのは、自身の測定方法によって得られる真の値を追求するために、自らの試験方法や試験業務の仕組みを一から見直す覚悟があるかどうかにかかっていると思います。

審査を担当する JAB では、試験所認定に関してこのようなコンサルタント的な指導は難しいかと思いますが、JABLAS では試験所認定制度の認知を広げるための活動を行いたい旨、伺っています。食品分野にとどまらず、日本の産業界全体における信頼性向上の為に、今後の更なる JABLAS の発展と活躍を切に期待しています。

以上

2. 認定取得の目的とメリット



財団法人茨城県建設技術管理センター
技術課長 石井盛男

(1) はじめに

当財団は、昭和 54 年 3 月に旧民法第 34 条に基づき設立された法人で、「建設技術水準の向上と安全確保を図り、もって社会発展のため建設事業の振興発展に寄与する」ことを目的に設立し、31 年が経過いたしました。

この目的を達成するために、建設事業における建設材料の品質管理試験や建設技術に関する調査研究、並びに資源循環型社会の構築を目指し、建設発生土の再生利用事業や建設副産物に関する有効利用の調査、更には建設事業に携わる職員育成のための研修や建設技術に関する情報提供等の事業を実施しております。

(なお、平成 20 年 12 月からは「特例財団法人」となった。)

(2) 認定取得の目的

建設業界の ISO 9001 認証が進む中、建設材料を試験する当技術部も ISO への対応が必要となり、ISO 9001 と ISO/IEC 17025 の 2 種類を検討しました。結果として、ISO 9001 は広範囲な認証を得られるが、能力等の審査がなく、かつ試験結果を保証されないため、ISO/IEC 17025 への移行が必要になると判断された。

* ISO/IEC 17025 では試験項目毎の認定であるが、妥当な試験結果を出す能力があることを保証され、より高い信頼性が得られる。

このようなことから、ISO/IEC 17025 試験所認定を目指しました。平成 15 年からシステムの構築を開始し、17 年 5 月に鋼材の引張試験で初回認定を受けました。その後 3 回の認定拡大により、現在では 19 の試験項目で認定を取得しております。

(3) 認定取得のメリット

ISO 9001 認証と対比すると要求事項が多いため、ハードルは高くなっておりますが、顧客が要求する試験項目の認定取得を満たす環境となっております。なお、ISO/IEC 17025 は試験項目毎の認定であるため、認定拡大によるシステムが大きくなることや、拡大時に審査費用が多くなるなどのデメリットもあります。

(3. 1) 試験所側のメリット

- ・ 従来から公的試験機関として中立・公平・正確をモットーに活動しておりますが、認定取得により、更に第三者による保証が得られることなど、社会的な評

価が高まっております。

- ・ 新JISでは、JIS工場が材料や製品の品質試験を外注する場合、JIS Q 17025 に適合している試験所であることを求めており、試験所選択の必須条件となっております。
- ・ 試験方法では規定されていない試験設備や試験技量など試験環境の維持管理を明確にするため、常に一定レベルを保持できます。また、職員自らが管理することにより、試験結果の信頼性に対する職員の意識向上を図ることができます。

(3. 2) 試験所利用者側のメリット

- ・ 認定シンボル付き試験報告書が発行されるため、試験結果に対し発注者から信頼されております。
- ・ 試験所を選択する際の条件としても最も高い評価が得られます。

(4) JABLAS へ期待すること

最近では、ISO/IEC 17025 に関するテキストが増え、またセミナーも「不確かさ」について多く開催されていることから、システム構築は以前より容易になったと思われます。しかしながら、まだまだ難解な点もあります。これからは、審査経験が豊富な審査員も多数加入されている JABLAS の場を利用することにより、問題点の解決を図っていきたいと考えております。

また、実施可能な技能試験が少なく、試験結果の有効性を検証する認定試験項目に限りがあるのが現状です。認定試験項目が共通する会員試験所に協力を求め、試験所間の交流を実施できればと期待しております。

以上

活動報告

2010年7月以降の主な活動を紹介します。

1. ワークショップ

2010年7月2日に、「易しい不確かさの求め方とトレーサビリティの考え方」と題したワークショップが、東京都品川区立総合区民会館 きゅりあん にて37名の参加を得て開催されました。

内容は、測定の不確かさとトレーサビリティに関する説明、規格要求事項、不確かさの求め方、拡張不確かさの決定、簡単な演習、トップダウン方式による不確かさの求め方（不確かさ計算ソフト解説含む）などで、試験・検査業務に携わる方々には、大いに参考になるものでした。講師は JABLAS 代表幹事の青柳 邁でした。

本ワークショップは、6月8日に大阪で行われたワークショップと同一内容ですが、参加希望者が多かったため、急遽7月9日に JAB 会議室で追加開催されました。（36名参加）10ページのアンケート結果も併せてご参照ください。

2. セミナー

2010年7月29日に、「タイプAの不確かさ評価と分散分析の応用」と題して、東京都品川区立総合区民会館 きゅりあん にて188名の参加を得て、JABLAS/JAB 共催セミナーが開催されました。内容は6月28日に大阪で実施されたものと同一で、タイプAの不確かさ評価について説明すると共に分散分析の基礎的なところから不確かさ評価への応用と問題まで、わかりやすく解説したものでした。講師は、同じく独立行政法人 産業技術総合研究所の 田中 秀幸 様でした。

3. 講演会

2010年8月20日に、「環境規制（RoHS、REACH等）の最近の動向及び分析方法の解説と不確かさの求め方」と題した講演会が、JAB 会議室にて22名の参加を得て開催されました。

内容は、EU RoHS 指令を中心とした環境規制の最近の動向、IEC 62321 試験法の概要と不確かさの推定結果、不確かさの推定における技能試験の役割、試験所認定の最新動向と RoHS 試験所の役割および 総合討議で、参加者から大変好評をいただきました。

講師は松浦技術士事務所 技術士 松浦徹也様（①）、日本環境株式会社 検査本部検査センター長 行谷義治様（②）、JABLAS 代表幹事 青柳 邁（③、④、⑤）でした。

11ページのアンケート結果も併せてご参照ください。

4. 相談コーナー

会員、非会員を問わず今日まで多くの相談を受けて、好評をいただいております。主な相談内容は試験所認定申請までの準備、認定範囲、不確かさ、トレーサビリティ、技能試験等に関するものですが、最近、機関様事務所等への現地出張セミナーの要望

が多く寄せられるようになりました。

ご希望に応じたメニューをご提案させていただきますので、お気軽にご相談ください。

5. 試験所賠償責任保険・団体保険制度の検討

本試験所賠償責任・団体保険制度について、先般アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。現在、鋭意創設準備中ですので、準備が整い次第改めてご案内申し上げます。いましばらくお待ちください。

アンケート結果報告

JABLAS では、多くの講演会、セミナー、ワークショップを開催していますが、その都度参加者のご協力を得て、アンケート調査を実施しております。

この調査は、参加者からの忌憚のない評価及びご意見を今後の運営に反映させ、会員の皆様方に一層お役に立てるものとするために実施しているものです。本号では今年度前半に実施した分について、その結果をご報告いたします。今後とも同様のアンケート調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

1. 「第4回ラボラトリーのための内部監査員養成講座」

実施日時： 2010年6月25日及び26日

会場： JAB会議室

参加者総数：24名（会員19名、非会員5名）

回答者数：24名（回収率100%）

(1) 本講座は役に立ちましたか？

1日目

| | 5役に立った | 4 | 3普通 | 2 | 1役に立たなかった | 合計 |
|-----|--------|-----|-----|----|-----------|------|
| 回答数 | 8 | 10 | 6 | 0 | 0 | 24 |
| 回答率 | 33% | 42% | 25% | 0% | 0% | 100% |

2日目

| | 5役に立った | 4 | 3普通 | 2 | 1役に立たなかった | 合計 |
|-----|--------|-----|-----|----|-----------|------|
| 回答数 | 9 | 9 | 6 | 0 | 0 | 24 |
| 回答率 | 38% | 38% | 25% | 0% | 0% | 100% |

回答率は少数点以下四捨五入のため合計値が合わないことがあります。

(評価)

全体として、両日とも本講座を受講して役に立ったとの評価をいただきました。

但し、下記の貴重な御意見をいただいておりますので、これらを参考にして、さらなる改善をしていきたいと考えます。

(主な御意見)

- (a) 4章、5章の要求事項の内容、また内部監査のプログラムについて知見を得ることができた。
- (b) 当初の予定より演習問題が延長されて良かったが、もっと時間を割いて欲しかった。
- (c) 内部監査を実際に行うロールプレイングのようなものがあったらよい。2日では短い。
- (d) 事例から関係する項目を考えることが今までなかったので、勉強になった。実際に学んでいきたいと思う。
- (e) 監査時の質問の仕方とか、今まで避けたい質問をしてきたことを感じた。次回からは勉強したことを参考に有効な監査をしたい。

(2) 他の方へ当該講座を進めたいと感じましたか？

| | 5 強く薦めたい | 4 | 3 普通 | 2 | 1 薦めたくない | 無回答 | 合計 |
|-----|----------|-----|------|----|----------|-----|------|
| 回答数 | 7 | 8 | 6 | 1 | 0 | 2 | 24 |
| 回答率 | 29% | 33% | 25% | 4% | 0% | 9% | 100% |

(評価)

参加者の多くの方に他の方へ受講を薦めたいと感じていただきました。ありがとうございました。

(主な御意見)

- (a) 規格の理解が深まり、今後の運用に役立つと感じたので。
- (b) 同じ部署の監査員にも内容を伝え、この講座を薦めたいと思った。
- (c) 違う視点から職場を見ることができる。
- (d) 内部監査の考え方自体は ISO 9001 と変わりなく、他のものは規格の理解がまず必要と思った。
- (e) 本講座は相応の予習が必要。ISO 9001 などを全くやっていない人には、2日で行う内容では難しすぎる。

(3) 認定取得について

| | 1 検討中 | 2 準備中 | 3 考えていない | 4 取得済 | 合計 |
|-----|-------|-------|----------|-------|------|
| 回答数 | 1 | 5 | 0 | 18 | 24 |
| 回答率 | 4% | 21% | 0% | 75% | 100% |

(評価)

既に認定を取得されている試験所の方が 75% で、これから取得を考えておられる試験所からの方が 25% でした。認定取得後も現状の内部監査をより良くしていきたい

いという試験所様の強い意志を感じました。

(4) 本講座実施の情報はどこでお知りになりましたか？

| | 回答数 | 回答率 |
|-----------------------------|-----|------|
| JABLAS からの案内 | 10 | 42% |
| JABLAS ウェブサイト | 7 | 29% |
| その他（品質管理者、上司、同僚、問合せ、昨年度参加者） | 7 | 29% |
| 合計 | 24 | 100% |

(5) 希望する公開講座（複数回答あり）

| | 回答数 | 回答率 |
|--|-----|------|
| 内部監査員養成講座 | 5 | 13% |
| 規格解説講座 | 13 | 33% |
| 経営者向け試験所認定とマネジメントレビュー | 1 | 3% |
| 分野別不確かさ講座 （基礎 3、化学分析 9、臨床検査 4、電気 1、微生物 2） | 19 | 48% |
| その他 | 1 | 3% |
| 無回答 | 1 | 3% |
| 合計 | 40 | 100% |

回答率は少数点以下四捨五入のため合計値が合わないことがあります。

(評価)

分野別不確かさ講座と規格解説講座の希望が多くありました。分野別不確かさについては、今年度計画にとり入れてありますが、規格解説講座については来年度の検討課題とさせていただきます。

(6) JABLAS への要望等

- (a) ネット上での可能な限りの情報提供。
- (b) 試験所認定を利用したより良いラボの活性化についての講座があればよい。
- (c) 試験所と臨床検査室は条項も違うので、別々にやってもらいたい。
- (d) せっかくいろいろな試験所の人々が集まるので、短くてもよいから交流会をやってほしい。
- (e) 試験所が悩みを相談できる場を提供してもらいたい。
- (f) 初心者向けと経験者向けに分けるか、3日コースにするかしたらもっと良いと思う。
- (g) アンケートを強要しないで欲しい。無記名にしないと回答しづらい。

2. 「易しい不確かさの求め方とトレーサビリティの考え方」

実施日時：2010年7月2日及び9日

会場：東京都品川区立総合区民会館「きゅりあん」

参加者総数：72名（会員51名、非会員21名）

回答者数：68名（回収率94%）

（1）内容は理解できましたか？

| | 5 理解できた | 4 | 3 普通 | 2 | 1 難しかった | 合計 |
|-----|---------|-----|------|-----|---------|------|
| 回答数 | 3 | 14 | 25 | 22 | 4 | 68 |
| 回答率 | 4% | 21% | 37% | 32% | 6% | 100% |

（評価）

今回のワークショップは“易しい”というタイトルに比してやや内容が難しかったのではないかと考えます。今後はレベルに応じた開催と分野別開催を計画していく所存です。

（2）内容は役に立ちましたか？

| | 5 役に立った | 4 | 3 普通 | 2 | 1 役に立たなかった | 合計 |
|-----|---------|-----|------|----|------------|------|
| 回答数 | 15 | 34 | 16 | 3 | 0 | 68 |
| 回答率 | 22% | 50% | 24% | 4% | 0% | 100% |

（評価）

大半の方に役に立ったと評価いただきました。

（3）参加の目的（複数回答あり）

| | 認定申請の準備 | 不確かさの理解 | その他 | 合計 |
|-----|---------|---------|-----|------|
| 回答数 | 8 | 62 | 8 | 78 |
| 回答率 | 10% | 81% | 10% | 100% |

回答率は少数点以下四捨五入のため合計値が合わないことがあります。

（評価）

参加の目的は不確かさの理解が80%と大半を占めました。

(4) 本ワークショップの実施情報はどこでお知りになりましたか？

| | 回答数 | 回答率 |
|---------------------|-----|------|
| 上司より | 12 | 15% |
| 社内の人に薦められて | 11 | 14% |
| JABLAS ウェブサイト | 10 | 13% |
| JABLAS からの案内 | 7 | 9% |
| その他 (社内回覧、JAB メール等) | 6 | 8% |
| 無回答 | 32 | 41% |
| 合計 | 78 | 100% |

(評価)

29%の方が上司あるいは社内の人に薦められてと回答いただきました。
人材教育の一環として JABLAS 開催のセミナー等を活用いただいております、御礼申し上げます。

3. 「環境規制 (RoHS、REACH 等) の最近の動向及び分析方法の

解説と不確かさの求め方」

実施日時： 2010年8月20日

会場： JAB 会議室

参加者総数：22名 (会員14名、非会員8名)

回答者数：22名 (回収率100%)

(1) ご自分のお仕事に役立ちましたか？

| | 5 とても役に立った | 4 | 3 普通 | 2 | 1役に立たなかった | 無回答 | 合計 |
|-----|------------|-----|------|----|-----------|-----|------|
| 回答数 | 9 | 11 | 0 | 0 | 0 | 2 | 22 |
| 回答率 | 41% | 50% | 0% | 0% | 0% | 9% | 100% |

(評価)

ほぼ全員の方に仕事に役立ったと評価していただきました。今後ともこのような評価をいただくような企画を計画していきたいと考えます。

(2) 参加の目的（複数回答あり）

| | 認定申請の準備 | 不確かさの理解 | その他 | 合計 |
|-----|---------|---------|-----|------|
| 回答数 | 8 | 10 | 9 | 27 |
| 回答率 | 30% | 37% | 33% | 100% |

(評価)

認定申請の準備、不確かさの理解、その他とほぼ同じ比率でした。

(3) 本講座の情報はどこでお知りになりましたか？

| | 回答数 | 回答率 |
|-------------------|-----|------|
| JABLAS ウェブサイト | 7 | 32% |
| JABLAS からの案内 | 5 | 23% |
| その他（口コミ、以前のセミナー等） | 7 | 32% |
| 無回答 | 3 | 13% |
| 合計 | 22 | 100% |

(評価)

約半数の方が JABLAS からのお知らせによって参加いただきました。今後とも的確な情報提供をさせていただきます。

(4) 今後のワークショップの開催について

| | 5 必要 | 4 | 3 どちらでもない | 2 | 1 不必要 | 無回答 | 合計 |
|-----|------|-----|-----------|----|-------|-----|------|
| 回答数 | 16 | 4 | 0 | 0 | 0 | 2 | 22 |
| 回答率 | 73% | 18% | 0% | 0% | 0% | 9% | 100% |

(評価)

全員の方にこのテーマの講演会開催の継続開催の希望をいただきました。皆様方のこの分野への高い関心度が伺えます。次回も開催を計画いたします。

(今後希望するテーマ)

- 試験方法の妥当性確認の仕方、具体的方法、事例等。
- 不確かさとトレーサビリティに関するテーマ。特に不確かさに関する事例、トレーサビリティに関する最新情報。
- 日本国内の環境規制等の動向について。
- ハウスメソッドから IEC 62321 への変更、追加申請する上での最低限の必要事項が具体的にわかるようなセミナー。
- 管理主体対象の講演会を開催して欲しい。

(自由意見)

- 他の試験所との交流（座談会）の場を用意して欲しい。
- 充実した講演会だったと思う。不確かさを実務と重ねて説明していただきとてもわかりやすかった。

- (c) 制度の説明がなかなか難しいものだったが、理解しなければならない事項だと感じた。(顧客の信頼性を高めるために)。
- (d) RoHS, REACHの内容が変わった時(又は変わる前に)情報を提供して欲しい。

今後の予定

1. 次期 JABLAS 会長選挙

会員規約により、2011 年度及び 2012 年度の会長を選出するため、選挙管理委員会(委員長 青柳邁 JABLAS 代表幹事)が発足しました。既に会員の皆様に立候補届出用紙をお送りし、候補者の自薦、他薦をお願いしておりましたが、9月30日16時で締め切りました。

今後、投票(立候補者1名の場合は無投票)により、11月下旬には新会長が決定する予定です。

2. ワークショップ「経営者向け試験所認定とマネジメントレビュー、内部監査」

開催日 2010年10月7日(木)

開催場所 JAB 会議室

3. ワークショップ「微生物試験 バリデーションと不確かさの求め方」

開催日 2010年10月22日(金)

開催場所 JAB 会議室

4. セミナー「鉄鋼試験所(化学、機械物理)と不確かさの求め方」

開催日 2010年10月29日(金)

開催場所 JAB 会議室

5. セミナー「臨床検査の不確かさ」

開催日 2010年11月5日(金)

開催場所 JAB 会議室

6. セミナー第五回ラボラトリーのための内部監査員養成講座

開催日 2010年11月12日(金)、13日(土)

開催場所 JAB 会議室

(注) 上記3、4及び5については、現在、参加申し込み受け付け中です。詳細は JABLAS ウェブサイトをご覧ください。ウェブサイトの「講演会・ワークショップ・セミナー一覧」ページの「受付中」(赤いマーク)をクリックしますと、受講申し込みができます。

新刊紹介

この度、JABLAS 名誉会員の信州大学農学部 後藤哲久教授が編集委員となり、また JABLAS 会員も多数執筆担当されている「最新版 食品分析法の妥当性確認ハンドブック」が出版されました。本書は、2007年に発行した初版を全面改訂し、2007～2010年の最新情報及び具体例を豊富に収録するとともに、食品分析の現場で益々統計学的な考え方が不可欠となっている現状に鑑み、特にサンプリングとデータの統計的取り扱いに関する練習問題のCD-ROMを特別付録として、内容の一層の充実を図っております。

食品分析分野でご関心のある方は、是非御一読くださいますよう、本書を JABLAS として推薦させていただきます。

発行元 株式会社 サイエンスフォーラム

発行日 2010年8月10日

定 価 29,400円（消費税込み）

会員の状況

2010年9月27日現在の会員数は、前回報告時より3件増えて、機関会員96件、個人会員99件、名誉会員2件、合計197件となっています。会員の詳細情報は JABLAS ウェブサイトの会員限定コーナーに掲載されておりますので、ご参照ください。

引き続き2010年度新規会員募集を行っておりますので、是非ご関係の機関、個人の方へのお誘いをよろしくお願い申し上げます。JABLAS ウェブサイトの「JABLAS 会員」ページから簡単に入会手続きができます。

なお、会員限定コーナーへのアクセスには、以前にお知らせいたしましたパスワードが必要です。

事務局だより

【お願い】

届出住所、所属、氏名等に変更がありましたら、メール、電話、Fax いずれでも結構ですので、速やかに事務局までお知らせ下さるようお願い申し上げます。

JABLAS からのご連絡が、迅速かつ間違いなくお手元に届くようご協力をお願い致します。

【新事務局員紹介】

7月より柴田 実（シバタミノル）さん、9月より志柿 芳江（シガキヨシエ）さんが、事務局員として仲間入りしました。当初は不慣れな点があり、ご不自由をお掛けすることがあるかもしれませんが、よろしくお願い致します。

お詫びと訂正

JABLAS NEWS 第四号の専門部会活動報告記事（2 ページ及び3 ページ）の中で、2010 年とすべきところ、2020 年と記載する誤りがありました。お詫びと訂正をさせていただきます。

以上

編集兼発行人 井須 雄一郎 発行所 J A B 試験所協議会

住所：〒141-0022 東京都品川区東五反田 1 丁目 22 1 五反田ANビル3 F

公益財団法人日本適合性認定協会内

電話：03 5798 8820 FAX：03 5798 8821 E-MAIL：info@jablas.jp URL：http://jablas.jp